

ふくし TIMES

<http://www.knsyk.jp>

vol. 756



2014. 11

福祉タイムズ

編集・発行 社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会



〈撮影・菊地信夫〉

contents

直子さんと優美子さん

デイルームで催された演奏会を聴き終えて、ひと息。「今日は気分が良さそうね」高橋直子さん(左)が声を掛けると、カメラを前に緊張の面持ちだった大宅優美子さんに自然と笑みがこぼれた。特別養護老人ホームメイサムホール(厚木市)で生活するお二人は、2年前に出会ったときから気心の知れた仲だ。「お互いの姿が見えないと、ついつい目で探しちゃうの」直子さんのお隣にはいつも優美子さん。二人だから分かち合える時間がある。【関連記事12面】

- 02 特集 研修を生かす 現場のチカラ！
- 04 **NEWS & TOPICS**
 - ・第27回日本福祉施設士会・関東甲信越静岡ブロックセミナー開催報告
 - ・県「DVに悩む男性のための相談窓口」スタート ほか
- 06 **私のおすすめ**
障害のある人のコミュニケーションをサポートするモバイル用アプリ
- 07 **福祉最前線** (認N) ワンダーポート
- 08 **連載** 私たちの目指す「地域包括ケアシステム」⑧
- 10 **県社協のひろば**
 - ・第63回神奈川県社会福祉大会開催報告
 - ・「社会福祉制度・施策に関する提言」を提出
- 12 **かながわHot情報**
(福)くすのき メイサムホール(厚木市)

研修を生かす 現場のチカラ！

福祉従事者を育てていくことは、一義的に法人・事業所の責務とされていますが、福祉サービスの質の向上に向けて外部研修も期待されています。本会では、社会福祉法に基づき、さまざまな研修を実施し、昨年度は2966人の方々に受講いただきました（介護支援専門員関係研修を除く）。

どの研修も満足度の高い評価をいただきましたが、研修の成果は職務への反映、ひいては福祉サービス利用者や県民の福祉向上につながる事が本来の目的です。そこで今回の特集では、これまでに本会の研修を受講いただいた3施設の取り組みから、福祉現場に生かされた研修効果の状況についてお伝えします。

運営方針に照らして 自らの襟を正す

「法人理念を实践する「接遇」研修

運営理念に「家庭的な雰囲気を作ること」と掲げている福祉施設が、利用者のお名前に「様」を付けて対応するのは、果たして家庭的と言えるのか。平成23年度から開催している「法人理念を实践する『接遇』研修」では、このように問い掛けてきました。受講者は日ごろの「接遇」への気づきをもとに業務改善に取り組み、これまでに多くの改善例が報告されました。その一つが横須賀市にある（福）宗得会です。

同会の理念に基づく運営方針には「福祉活動やボランティア活動の受け入れを強化する」という一文が明記されています。しかし、最寄り駅から法人の運営する特別養護老人ホームまでの道のりはバス便のみで、車で通勤する職員が多く、雨の日には

利用者の家族やボランティアが車で訪れても、駐車するスペースがないことがありました。

その都度、来客対応していた事務職員の秋本恭里さんと上林洋子さんは、この研修に参加し、法人理念の視点から職場の問題や日々の業務点検が大事だと再認識したと言います。

職場に戻り、駐車場の問題を「利用者さんやボランティアさんを困らせているのは運営方針に反する」と施設長など上層部に働き掛け、職員の車両管理を徹底しました。その結果、来客用のスペースがほぼ確保され、やむなく来客スペースに駐車してある車も所有者が分かるため、速やかに移動できるようになりました。

同会では現在も、職場での不満や疑問を放置せず、法人理念に反する問題は解消しよう、そして忘れないように行動しようと、運営方針を掲示するなどの工夫を重ねているそうです。

不具合品を見つけたら ハイタッチで喜ぼう！

「チームビルディング研修

福祉の仕事は一人で行えるものではありません。そのため、職員をはじめ関係者がどのように協力し合って仕事を進めていくかが重要です。

チームとしての団結力を高めていくために必要なことを学ぶ「チームビルディング研修」では、講師から命題を与えられた受講者が、まず、その命題を達成した際の「喜びのイメージ」を描きます。そして苦戦しながら命題をクリアできたとき、そのイメージを再現します。喜びのイメージを全員で実現することでチーム力が高まると同時に、メンバー個々の潜在能力の高まりを実感することが

できる研修プログラムです。

この研修を受講した齋藤潤一さんは、平塚市にあるロータス授産センター（福）辰会）の職員です。知的

障害がある方の就労支援を行うセンターの業務の一つに、車の部品を検品する作業があります。

齋藤さんは「職場の利用者さんと職員は一つのチームだ」と捉え、日ごろ苦勞している納期管理や納品数の達成について、研修で培った「目標設定とゴール共有」という手法を取り入れ、チーム力をアップしながら業務を進めたいと考えました。

一日の作業内容と目標、ゴール設定をより明確に、分かりやすくするために、ミーティング内容の充実を図り、掲示物なども工夫しました。

その結果、それぞれが自主性をもって仕事に取り組めるようになり、研修の重要テーマの一つでもある、チーム力のアップのための「参加意識を高める」ことにつながりました。

そして不具合品の発見や、日々の目標を達成することができたときは、ハイタッチや一本締めなどで大いに喜びを分かち合います。



研修での分かち合いを...



職場での喜びの分かち合いへ！

利用者の皆さんも職員も同じ目標に向かって一緒に作業し、成功や達成感を分かち合うことで、お互いの信頼関係や認め合える関係性をつくっていくこともチーム力アップに貢献しています。

日々、皆で小さな喜びを分かち合うことは、ややもすればマンネリに陥りやすい職場に変化をもたらす大きな効果がありました。

職員に求められる能力を 職員自身で磨き、育ち合う！

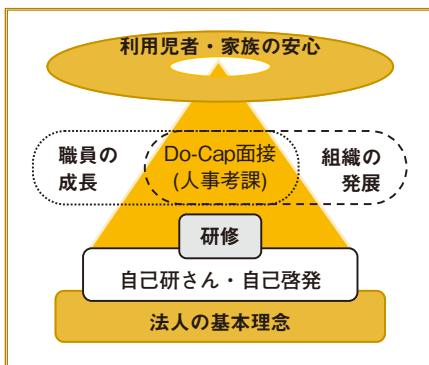
～職場内研修担当者研修

平成8年度から開催中の「職場内研修担当者研修」は、職員個々の能力と、理念の具現化に向けた福祉サービスの提供する上で求められる能力との差を導き、その差を研修ニーズとして職員育成計画にまとめいく研修です。これまでに多くの受講生を輩出し、さまざまな現場の職員育成計画にこの手法が活用されています。その中の一つが伊勢原市にある、すこやか園(福至泉会)です。

平成23年度に研修受講した小林千青さんが所属する同会は、当時、本部と各施設の研修担当者で構成された「法人研修プロジェクト」を立ち上げ、職員の研修体系の作成に着手しようとしていました。プロジェクトの一員だった小林さんから研修内容の報告がなされ、あらためて職場

内研修の重要性を共有しました。そして、過去に同研修を受講した同僚と共に、組織と個人双方の視点から取り組む研修会の意義や、人事考課との関連性が盛り込まれた体系図を完成させました。【図】

【図】個人・組織とサービスの構造



(福至泉会イメージ図より本会作成)

同会の人事考課は、利用者へのサービスの質が向上するように、自己成長を図ることに目を向けられるようになっていきます。すこやか園では人事考課面接をそのための動機づけとして行い、法人で確立された研修体系と面接を反映させた年間研修計画を作成し、取り組んでいます。

また、人材育成計画の作成後、職員自ら研修への参加を希望することが増え、職場に生かせる点など、気づきの視点から研修報告が行われるようになったそうです。このような「育ち合い」を意識した取り組みを積み重ね、職員の持ち味を生かすこと、支え合うことを大切にしたい風土を皆

でつくり出す職場になってきているようです。

さらなる高みへ！

今回ご紹介した3事例は、研修に参加したことを契機にあらためて職場の課題を見つめ直し、研修で得た考え方や手法を交えて解決に取り組み、研修成果を「見える化」させたと言えます。外部研修から得た学びをどのように実践に生かすか。そこには受講者の意思が大きくかわりますが、複数の職員が同じ研修に参加することで、目指す方向性を職場で共有できたという背景もありました。課題と方向性を分かち合える人が多いほど、物事を進めていく力は大きくなります。

一つの課題がクリアできると自信

が生まれ、その自信は次の課題に取り組む力につながります。取材させていただいた方々は皆、次の達成目標をすでにお持ちでした。

プラスの波及効果は、他の職場へもつながります。本会ではいくつかのフォローアップ研修を行い、研修成果やつまづいている問題について話し合っています。現場の悩みには現場の人からの助言が有効です。すこやか園のもとには、職場内研修の計画作成に取り組む法人がヒアリングに訪れたと聞きます。

本会福祉研修センターでは今後も福祉サービスの質の向上を目指し、福祉現場の悩みや課題に寄り添い、現場の職員同士をつなぎ、福祉従事者研修の企画・実施に努めていきます。

(福祉研修センター)

かながわ福祉人材研修センター

所長 本間 智恵子

研修効果のひろがりにつながり

外部研修は、専門的な知識や技術の習得とともに、職場を離れて日常業務を見直す場となります。併せて他の施設・事業所に従事する仲間と出会い、情報や課題の共有できる場にもなり得、そこでは講師がお伝えする以上の学びが、受講生にとってあるものと考えています。

むしろ、研修のねらいやスタイルによって、研修効果が実践に反映しやすいものと、反映に時間がかかるものとがありますが、どの研修においても、受講される方自身、また職場にもスパイスを加える効用があります。研修の受講などで資質が高まった職員が結集することで、その力は何倍にも発揮されることでしょう。

さて、福祉職のキャリアの道筋を描くことが求められる中、本会では新任・中堅等、職務階層ならではの気づきを大切に、課題を明確にして日常業務に反映させることを目標の一つに、階層別研修のプログラム再編に取り組んでいます。ご案内は近々させていただきます。ぜひご活用ください。

※福祉従事者研修の開催情報については、本会ホームページ (<http://www.knsyk.jp>) に掲載しています

社会福祉法人に期待するもの

「第27回日本福祉施設士会・関東甲信越静ブロックセミナー」開催報告

10月23日・24日、第27回日本福祉施設士会・関東甲信越静ブロックセミナーが横浜市内で行われました。このセミナーは、「社会福祉法人に期待するもの」をテーマに、神奈川県福祉施設士会（会長・小田原福祉会・時田純理事）が本年度のブロック当番の事務局として、実行委員会（委員長・福藤嶺会・西山宏二郎理事長）を組織し、昨年度から準備を進めてきました。



時田会長



登壇する阿部さん

当日は県内外より160人の社会福祉施設長・従事者の参加があり、これからの社会福祉、社会福祉法人・施設のあるべき姿を共に学び合いました。

1日目は、阿部志郎さん（福横須賀基督教社会館会長）の「福祉とは、生きる喜びと明日への望みをつなげること」を主題とした、これか

らの福祉施設の役割と施設長像についての基調講演に始まり、事例発表・講演では、横浜市ホームレス自立支援施設「はまかせ」の実践から、若者や認知症高齢者をはじめ、誰もが路上生活者になり得る社会状況下における現代のホームレスの現状と、種別を超えた施設間連携の必要性が報告されました。

2日目は、わが国の福祉人材採用の現状と、福祉業界全体で価値のあるブランドを構築し、法人が共に高め合う必要性について、門野友彦さん（株）リクルートキャリア）よりレポートされ、続いて古都賢一さん（前厚生労働大臣官房審議官）からは、社会福祉の担い手としての矜持、狭間への積極的な対応、福祉サービス選択の保障機能、人を大切に育てる文化づくりなど、社会福祉法人に対する力強いエールが送られました。

新潟県より参加した保育園長は、「大変充実したセミナーだった。来年度は本県が当番です」と話され、全国の実践に学び合う機会づくりと、福祉施設士による現場からのメッセージの発信に、今後とも期待が高まります。

（社会福祉施設・団体担当）

地域生活支援の新たな戦略を求めて

「地域居住による生活困窮者支援」開催報告

入居者10人が犠牲となった「静養ホームたまゆら」（群馬県）の火災事故から5年半。厚労省は本年度、「低所得高齢者等住まい・生活支援モデル事業」（本紙10月号「連載」参照）を開始するなど、身寄りもなく、介護を必要としながらも、自己資産や所得では生活の難しい方たちへの居住支援について、関心が高まっています。

全国の研究者や生活困窮者支援の現場で活動する、NPO関係者らで構成する「支援付き住宅推進会議」は、低所得高齢者の住まいを取り巻く研究事業や政策提言を重ねており、この取り組みの一つとして、10月13日、シンポジウム「地域居住による生活困窮者支援」（共催：N自立支援センターふるさとのか）が東京都内で開催されました。

中央大学教授の宮本太郎さんによる基調講演「地域生活支援の新しい戦略」では、支える・支えられるという一方通行の仕組みはすでに限界を迎えており、「支えられ

る側の力を引き出す雇用のノーマライゼーションを進め、生活支援労働と居住との新たな連携をつくる必要がある」と発題。

続くパネ

ルディスカッ

ションでは、

元厚労省老

健局長の宮

島俊彦さん

（岡山大学

客員教授）

から地域包括ケアシ

ステムの構想で導き出された互助機

能の説明があり、明治大学教授の

園田真理子さんはグループ居住・

集住が生み出す豊かなまちづくり

の可能性について提案されました。

（N自立支援センターふるさとのか）

の会常務理事の滝脇憲さんは、空

き家を活用した居住支援と入居者の

雇用創出の実践を踏まえ、支援

付き住宅から「支援付き地域」づ

くりへの視座を伝えました。

最後に、コーディネーターの高

橋紘士さん（国際医療福祉大学大

学院教授）は「私たち関係者一人

ひとりの地域実践を見直し、開発

と模索を続け、共有していこう」と

呼び掛け、幕を閉じました。

（企画調整・情報提供担当）



熱気あふれる会場内。全国から定員300人を超える参加申し込みがありました

●生活保護自立支援 川崎モデルを発信

川崎市は、生活保護受給者の就労支援をテーマに支援現場の声や実践例を紹介した『生活保護自立支援 川崎モデルの実践』（本体価格2,200円／川崎市健康福祉局生活保護・自立支援室編／（株）ぎょうせい）を10月1日、発刊した。本冊子は書店での販売および川崎市立図書館にて、貸し出し・閲覧の利用ができる。

●財務省 介護報酬6%引き下げを提言

10月8日に開催された財政制度分科会で、財務省は、平成27年度介護報酬改定において介護職員の処遇改善加算の拡充や在宅サービスの充実等を行いつつ、介護報酬全体として少なくとも6%程度のマイナス改定を行うべきと提言した。社会福祉法人の経営する特別養護老人ホームでは良好な収支差があるとの試算を示し、介護報酬の基本部分の適正化が必要と指摘した。

●保育士試験を年2回 県独自検討

10月9日、本県黒岩祐治知事は定例記者会見の中で、現在年1回実施する保育士試験を年2回に増やす方向で検討する考えを示した。待機児童解消に向けた保育士の人材確保の課題について、国家戦略特区として、県独自の取り組みを進める姿勢を明らかにしている。

●家賃が住宅扶助以下 本県15.8%

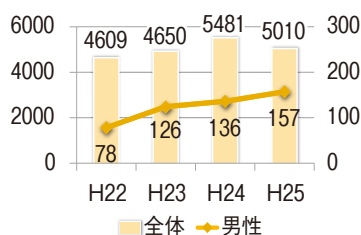
10月21日、厚労省は社会保障審議会生活保護基準部会にて、住宅扶助基準を検証するための基礎資料を得ることを目的として行った「生活保護受給世帯の居住実態に関する調査」の速報値を報告した。最低居住面積水準と設備条件を満たす民間借家・UR賃貸住宅のうち、単身者の住宅扶助特別基準（上限額）を上回るものはおよそ87%（全国平均）で、本県では15.8%をカバーする水準となることが分かった。

県「DVに悩む男性のための相談窓口」スタート

「妻に物を投げつけられた」「妻に自宅に入れてもらえない」「浮気を疑われて常に監視されている」「かっとなるとつい妻に手を上げてしまう」「妻を罵倒してしまふ」

被害・加害を問わず、DV（配偶者等からの暴力）に悩む男性のために、県民局では11月6日、新たな相談窓口を開設しました。ここ数年の県内のDV相談等の件数推移を見ると、全体に占める割合は小さいものの、DV被害を

【グラフ】県内の配偶者暴力相談支援センターで受け付けた相談件数



※被害者本人からの相談（交際相手からの暴力に関する相談を除く）
（県民局公表資料より本会作成）

受ける男性からの相談が増えていることが分かります。【グラフ】県では、男性がより相談しやすいように、同性である男性の精神保健福祉士を相談員として配置。

DVに悩む男性のための相談窓口

〈相談窓口〉 ナヤミ ナシヨ
☎0570-783-744

〈相談日時〉 毎週月曜日・木曜日
午後6時～9時
（年末年始を除く）

※相談は無料（通話料別途）
※平成27年3月末まで

〈問合先〉 県人権男女共同参画課
☎045-210-3640
FAX045-210-8832

「男性には悩みを抱え込んでしまいがちな傾向がみられる。周りでDVに悩んでいる方がいたり、些細なことでも気になることがあれば、まず電話してみてもいい」と窓口の利用を呼び掛けています。

（企画調整・情報提供担当）

一般家庭から大型ビルまで最新のエレクトロ技術により安心と安全を提供します。防犯カメラや新型AEDも取扱っております。

京浜警備保障株式会社

代表取締役社長 岡本 誠一郎

本社 〒221-0056 横浜市神奈川区金港町5番地10 金港ビル4F内
☎(045)461-0101 代表 FAX(045)441-1527

一般社団法人

神奈川県福祉研究会

福祉施設経営相談室 税務・会計の専門相談員

理事 伊藤 正孝(☎045-412-2110)

同 辻村 祥造(☎045-311-5162)

同 西迫 一郎(☎046-221-1328)

同 林 雄一郎(☎0466-26-3351)

代表理事 八木 時雄(☎042-773-9266)

あなたの情報発信のおてつだい
デザイン・印刷・ホームページ制作



きかんし印刷
株式会社 神奈川機関紙印刷所

〒236-0004 横浜市中区金沢2-1-12
営業部 TEL045(785)1700(代) FAX045(784)8902
制作部 TEL045(785)1768 FAX045(780)1588
http://www.kki.co.jp/

私のおすすめ

障害のある人のコミュニケーションをサポートするモバイル用アプリ

今や多くの人が使用しているスマートフォン。これまでの携帯電話と違い、さまざまなアプリケーションソフトウェア（以下、「アプリ」）を追加することで、活用方法が広がるのが特徴です。

今回はその中から、障害のある人のコミュニケーションをサポートするアプリをご紹介します。

◆ 手話をアニメーションで教えてくれるアプリ

手話で表現したいけれど、資料を見てもなかなか覚えられない、そんなときは『手話ステーション』を試してみませんか。このアプリには無料版と有料版があり、無料版では約300語が収録されています。「50音順」「カテゴリ」などから検索でき、アニメーションで手話を見ることができます。「こんなとき、手話ができれば」と思った場面で頼りになるアプリです。



◆ 手話ステーション

配信：(株)MDI
価格：有料版800円※
(iOS版900円)
URL：http://station.mdi.cc/

◆ 離れた相手と手書きで会話できるアプリ

「離れた場所にいる相手とも筆談でコミュニケーションができれば」というコンセプトの下、開発された『手書き電話UD』もおすすめのアプリです。

手書きならではの温かさと電話の良さが合わさり、コミュニケーションの幅が広がります。聴覚障害のある人とのコミュニケーションはもちろん、音が聞こえにくい場所や音を出しづらい場所でのやりとりなど、さまざまな機会にお役立てください。

今月は

⇒ (N)神奈川県障害者自立生活支援センター
がお伝えます！

通称KILC（キルク）。1997年4月設立。障害者の自立生活を目指してピアカウンセリング（障害者による相談事業）や各種情報提供、障害者施策の研究・提言など障害当事者の目線で共生社会の実現を目指した活動を展開。現在、厚木・平塚等4カ所の事業所で活動中。

〈連絡先〉〔法人本部〕厚木市愛甲1-7-6
☎046-247-7503 / FAX 046-247-7508
URL http://www.kilc.org/
E-mail info@kilc.org



◆ 手書き電話UD

企画：(株)プラスヴォイス
価格：無料※
URL：http://tegakidenwa.jp/

離れた相手とリアルタイムで手書きのコミュニケーションをとることができます

◆ 音声で読み上げてくれるアプリ

『トーキングエイド』は、言語障害のある人でも手軽にコミュニケーションを取ることができる読み上げアプリです。音声は4種類。音の高さや話す速度、音量を調節することで、自分のイメージに近い音声を選ぶことができます。細かな配慮がうれしいですね。

ひらがなや絵文字などで入力。子どもから高齢の方まで幅広い世代で活用できます。



◆ トーキングエイド

開発：U-PLUS Corporation
価格：6,400～6,800円※
URL：http://www.talkingaid.net/
※このアプリはiOSのみ対応しています

※価格には通信料は含まれていません。各アプリの仕様や動作環境等については、ホームページでご確認ください

～ほかにもあります！便利なアプリ情報～

◆ 東京都障害者IT地域支援センター

「障害のある人に便利なアプリ一覧」
URL http://www.tokyo-itcenter.com/

◆ かながわ障害者IT支援ネットワーク

「IT支援機器のご紹介」
URL http://shien-network.kanafuku.jp/

福祉最前線

—現場レポート—

◎このコーナーでは県内各地の福祉関連の当事者・職能団体等の方々から日ごろの取り組みをご寄稿いただきます。

(認N) ワンダーポート

理事兼施設長 中村 努



わが国初のギャンブル依存支援施設として平成12年設立。同22年に国税庁より、本年には横浜市より、認定NPO法人として認定を受ける。柔軟なカリキュラムを提供するために、公的な補助金を受けず、寄附を主要財源として活動中。
(連絡先) ☎045-303-2621 FAX045-303-2629

一人ひとりの暮らしの視点からみるギャンブル依存問題

ワンダーポートを開設した当初、私たちはギャンブルに問題を生じている人を一律に「ギャンブル依存症」として扱い、ミーティングを中心にしたカリキュラムを提供していました。その当時は、ギャンブルに依存することで生活が破綻していると考えていましたが、利用者を受け入れて行く中で、ギャンブルをやる前から仕事や生活ができていない人の存在に気づきました。

社会参加が困難であるために、パチンコ屋が逃避場所となっている人が少なくないことが分かってきたのです。

試行錯誤を繰り返し、私たちは支援の方法を見直してきました。今は「暮らし・仕事・余暇」の使い方を個別に考え、一人ひとりの課題に合わせた支援を提供しています。金銭管理が必要な人には長期的にかかわり続け、資格取得を目指す人には積極的に勉強をしてもらいます。中小企業診断士や宅建の資格を取得した人もいます。勉強や仕事の支援だけでなく、障害者手帳の取得からきめ細かな支援をしていくこともありました。また、マラソン大会に参加したり、小旅行に行くなど、ギャン

ブルに替わる余暇活動を経験してもらっています。

ギャンブルの問題解決のためには、「ギャンブル依存」という表面の現象だけを見ないで、その人の課題に合わせ、生活全体を変えていき、人生を充実させていくことが不可欠です。一方、昨今のカジノ法案関連の報道では「ギャンブル依存症」という言葉が一人歩きしているように感じます。悲惨さだけが強調され、医療の問題だと伝えられていることに違和感を覚えています。ギャンブル依存は「病気」ではなく、人生のつまづきや課題として考えるほうが問題解決につながるからです。

これまでの支援方針の変化は、ワンダーポートが既存の方法や概念に捉われず、今、目の前にいる問題を抱えた人のニーズをくみ取ることで生じてきました。これは、NPOとしてのミッションを追求した結果だと考えています。これからも社会は変わり続けますから、ギャンブルに依存する人のニーズも変化し続けると考えています。

私たちは、NPOだからできる柔軟な支援を売りにして、活動を継続していきたいと考えています。

平成26年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

事故・紛争円満解決のために！

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン① 施設業務の補償 (賠償責任保険、普通傷害保険、自動車総合保険)

① 基本補償(賠償・見舞)

補償金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財産賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金補償限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	初期対応費用(期間中)	500万円	500万円
	事故初期見舞費用(1名につき)	死亡 10万円 後遺障害 0.3~10万円 入院時 3万円 通院時 1万円 (1事故で10万円限度)	死亡 10万円 後遺障害 0.3~10万円 入院時 3万円 通院時 1万円 (1事故で10万円限度)
	利用者傷害死亡事故弔慰金		死亡(重度後遺障害) 100万円(78~100万円)
	利用者傷害事故見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

保険期間 1年 職種別 A級

▶ 年額保険料(掛金)

定員	基本補償(A型)
1~50名	35,000~61,460円
51~100名	68,270~97,000円
以降1名~10名増ごと	1,500円

プラン② 施設利用者の補償

プラン③ 施設職員の補償



スケールメリットを活かし、

有利な補償と
割安な保険料
です。

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「財産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問合せは下記にお願いします。●

団体 社会福祉法人
契約者 **全国社会福祉協議会**
(引受幹事保険会社) 株式会社 損害保険ジャパン
TEL:03(3593)6433

取扱
代理店

株式会社 **福祉保険サービス**
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

日本興亜損保と損保ジャパンは、関係当局の認可等を前提として、平成26年9月1日に合併し、「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」になります。

(SJI3-12122 2014.2.13 作成)

住まいの選択と整備

～地域の活性化に向けた多世代居住のまちづくり～

少子高齢化と人口減少は高齢者ケアのニーズの増大だけでなく、担い手不足による地域活動の停滞や地元商店街の衰退、空き家・空き店舗の発生など、まちづくりや地域経済にも大きな影響を与えます。いまだ厳しい行財政などさまざまな制約に直面する中、いかに地域を維持し、誰もが安心して生活できる地域包括ケアシステムを構築していくことができるか。その基盤となる産業や雇用を持続的に支えていくためには、子どもを産み育てやすい居住環境が充実し、多世代で豊かに暮らせるまちづくりが必要です。

そこで今回は「住まい」をテーマとした最終回として、多世代居住のまちづくりに向けた県内の取り組みから、地域包括ケアシステムの基盤となる地域の活性化に向けた住まいのあり方について考えます。

まちの新たな豊かさを求めて UR団地再生への挑戦

全国で1700以上の団地、約75万戸の賃貸住宅を管理する、(独)都市再生機構（以下、「UR」）では、建設から40年近く経過した住宅をどのように再整備し、団地再生を進めていくかを大きな課題としていました。

そこで平成22年から新たに、団地単位で経営全般を戦略的に企画・立案・実行する「団地マネージャー制度」を始動。翌23年には「21世紀モデルプロジェクト」として、URがこれまで蓄積してきた都市・環境技術、まちづくりのノウハウを総動員して団地再生に取り組む新規事業を立ち上げました。

この対象地域として洋光台地区（横浜市磯子区）が選定され、地区内3団地の再生を核として、地区全体の活性化を図るプロジェクトは「ルネッサンスin洋光台」と名づけられました。現在、地元住民で組織する「洋光台まちづくり協議会」・横浜市・磯子区・県・URの協働により、取り組みが進んでいます。

「らしさ」を生かし まちの変化を見せていく

横浜駅から約20分圏内に位置し、JR根岸線の建設に合わせて昭和41年から開発の進んだ洋光台地区は、坂や階段が多く、団地群と戸建て住宅がほぼ半分の構成になっていることが特徴の一つです。

洋光台地区の将来像を見立てるため、プロジェクトでは、各界の著名人で構成する「アドバイザー会議」と、有識者・地元関係者・

行政との連携を図りながらまちの活性化を議論する「エリア会議」を設置。

このほか自治会・町内会や地区社協、地域包括支援センター、学生、ボランティア等によるワークショップやエリア全戸調査（約1万800票配布・回答率約16%）を実施しました。

調査の結果、地域に住み続けたいと回答した人は全体のおよそ75%、緑豊かで安全という環境面への評価の一方、まちのにぎわいや利便性には低い評価が見られました。自由記入欄には、回答者の約半数からの書き込みがあり、「駅前がさびれてもいいとは思わないが、駅を出たらすぐ住宅街という洋光台の良さを消さないでほしい」など、まちへの熱い思いが表れていたと言います。

「これまでの取り組みを通じて、洋光台が目指すのは建設当時の若々しさを取り戻すことではなく、40数年の年月を受け入れること。人に例えれば、年齢を重ねてきた証の『皺』がむしろクールだと言われるような、まちの豊かさを実現していくことだと感じた」と洋光台団地マネージャーの尾神充倫さん。プロジェクトの目的は、洋光台ならではの味わいを守りつつ、地域で生活する方々と共に新たなまちの豊かさを探っていくことであり、そのためには「住民自身が変化を感じられるような仕掛けが必要」だと話します。

具体的な取り組みの一つとして、本年3月から「コミュニティラボ(Community Challenge Lab)」

(右) アドバイザー会議の様子をまとめた書籍『団地のゆるさが都市(まち)を変える。』(平成26年6月発行／定価1,000円(税込)／新建築社)





①②団地1階の商業スペースを
改装して開設した「CCラボ」
③団地マネージャーの尾神さん



◆(独)都市再生機構

☎045-682-1563 FAX045-682-1859
URL <http://www.ur-net.go.jp/>

「子どもの前でしか見られない
高齢の方の笑顔、お祭り等
のイベントで大活躍する障害
のある方たちなど、集うこと
で自然とお互いの役割が見つ
かる」と鷲尾さん



◆(認N)ぐるーぷ藤

☎0466-24-3100 FAX0466-24-7100
URL <http://www.npo-fuji.com/>

市民出資の福祉マンション (認N)ぐるーぷ藤(藤沢市)

市民の思いをかたちにした取り組みとして、
(認N)ぐるーぷ藤が自己資金0円から構想を
練り上げ、藤沢市に開所した「福祉マンシヨ

ン」が始まりました。CCラボは、洋
光台地区のコミュニティを元気にする活動を
応援することを目的に、来年3月までを試行
期間としてURが無償提供した地域活動拠点
です。利用期間に応じて「ショートラボ」(1
7日間)と「ロングラボ」(1カ月)の2室が
あり、現在の稼働率は「ほぼ100%に近い」
とあります。【写真】

「どのようなまちにしていきたいか、この地
区で暮らす皆さんと一緒に、時間と手間をか
けてその姿を紡いでいく必要がある」と尾神
さん。このまちで働く人、家族や友だちが近
くに住んでいる人など、CCラボの利用対象
を地域住民に限定しないことで、地域の持つ
新たな可能性に期待が膨らんでいるそうです。

ン」があります。

平成4年、同法人理事長の鷲尾公子さんは
仲間と共に、現在の法人の母体となる「ワー
カーズ・コレクティブ藤」を立ち上げました。
「生活する建物や居場所の中に、普通の社会
をつくりたい。さまざまな世代の人たちが『お
互いさま』の気持ちを大切に助け合い・支え
合って暮らす複合型の住まいをつくらう」

鷲尾さんたちは「福祉マンション」という
新たな住まいづくりへの夢を温めつつ、訪問
介護を中心に着実に地域事業を展開し、平成
15年に建築士や公認会計士、NPO、福祉関
係者らで構成する「住まいづくり研究会」を
開始。そこから2年をかけて、住まいづくり
の構想を練り上げました。同17年に設立した
コミュニティファンド「ふじファンド」では、
匿名組合方式で法人に資金を貸し付け、利息
を出資者に配分する仕組みに、2カ月間で9
50万円もの資金が集まり、大きな注目を
集めました。

市民の思いを出発点に 必要な暮らしの場を生み出す

平成19年に藤沢市に開所した「ぐるーぷ藤
一番館・藤が岡」は、子ども・障害のある方・
高齢の方がひとつ屋根の下で支え合う福祉マ
ンションです。4階建ての建物には、高齢者
住宅と障害者グループホームを併設し、訪問
介護事業・居宅介護支援事業・訪問看護事業・
医療的ケアを必要とする方のための複合型
サービス・障害者相談支援事業を実施。地域
住民が自由に利用できるレストランを運営す
るほか、幼児教室を運営する事業者にマンシヨ

ンの一室を貸し出しています。

「家族の介護と看取りを経験したことも重
なって、定められた対象別に集住せざるを得
ない、現在の制度上の暮らしのあり方に疑問
を持つようになった」と鷲尾さん。仕組みや
決まりは後からついてくるもので、ニーズの
一番近くにいるのは自分たち市民であり、市
民として、生活者としての日常と感情こそが
福祉の最前線だと思うと話します。

現在は「ぐるーぷ藤・二番館」の建設に向
けた検討を進めるとともに、介護保険法の改
正を見据えた市民主体の取り組みとして、藤
沢市から委託を受け、「藤沢市地域ささえあい
センター『ヨロシク』まるだいい」を本年10月
にオープン。誰でも利用できる食堂やミニデ
イサービス、総合相談窓口を運営しています。

「こんなまちに住みたい」を 原動力として

今回紹介した2つの実践は「こんなまちで
暮らしたい」という住まい方への思いを原点
に、まちづくりや住まいづくりをデザインし
ていることが伺えました。

高齢期の暮らしを支える仕組みとして取り
上げられることの多い「地域包括ケアシステ
ム」ですが、その基盤となるのは、多世代が
かわり合い、豊かに暮らすことのできる生
活空間です。それぞれの地域らしさを生かし
た、まちの基盤となる住まい・住まい方とは
どのようなものか。福祉に限らず、都市・住
宅・交通など個別の政策の垣根を超え、生活
者の視点に立ち戻る必要性を伝えています。

(企画調整・情報提供担当)

県社協の ひろば

共に生き、支え合う地域社会づくり 第63回県社会福祉大会開催報告

10月16日、秋晴れに恵まれたこの日、永年にわたり本県の社会福祉の発展に寄与されてきた方々の功績をたたえる、第63回県社会福祉大会を、県立音楽堂（横浜市西区）にて開催しました。

第1部の記念講演では、女性問題・高齢化問題評論家で、東京家政大学名誉教授の樋口恵子さんをお招きし、「高齢社会とどう向き合うか」21世紀の「ファミレス（＝ファミリーレス）時代」を見据えて」と題しご講演をいただきました。少子高齢化の進行により、家族が少なくなる「ファミレス社会」がやってくるという現状を踏まえ、家族や身内がいなくても、地域で支え合える「有縁・有援社会」をつくっていくことの必要性や、その担い手として、地域で活躍する福祉関係者への期待など、力強いメッセージをいただきました。

第2部の式典では、県知事表彰、県社協会長表彰および感謝、県共同募金会会長感謝の授与、第22回介護賞と、第3回かながわ福祉みらい賞の贈呈式を行いました。



本年度も多くの福祉関係者や来賓の方々のご参加のもと、感謝状・表彰状の授与が執り行われました

本年度は、県介護賞（7人）、かながわ福祉みらい賞（2人）、社会福祉関係者表彰（32人、7団体）、民生委員・児童委員永年勤続表彰（116人）、共同募金運動功労者表彰（28人、13団体）、県社協会長表彰（48人、79団体）、県共同募金会会長感謝（149人、40団体）でした。

受賞者を代表して、滝頭地区ボランティアグループ文月会代表の古知屋多恵子さんから「今回の受賞を機に、共に生き、支え合う地域社会づくりを推進する努力をしていきたい」とご挨拶をいただきました。

今回受賞されました1059人、161団体の皆さま、おめでとうございませう。今後のさらなるご活躍をお祈り申し上げます。（総務担当）

〈提言の主な内容〉

●政策提言活動の背景について

政策動向を踏まえた提言活動の趣旨等

●政策提言

1. 生活困窮・生活保護に関する提言
自立相談支援、就労支援、中間的就労、貧困の連鎖の防止等に関する提言
2. 高齢福祉に関する提言
地域支援事業・予防給付、サービス等の費用負担の見直し等に関する提言
3. 障害福祉に関する提言
相談支援、就労促進等に関する提言
4. 子ども・若者・家族福祉に関する提言
子ども・子育て支援新制度、社会的養護、ひとり親世帯支援等に関する提言
5. 権利擁護に関する提言
障害者差別解消法、日常生活自立支援事業、成年後見制度等に関する提言
6. 福祉人材の確保・定着・育成に関する提言
参入促進、資質の向上等に関する提言
7. 社会福祉法人制度に関する提言
地域における公益的な活動の推進、法人監督の見直し等に関する提言

●今後の施策展開に向けて

国・神奈川県・市町村に期待すること

●部会・協議会・連絡会等からの提言 (計113項目)

本会政策提言委員会は、本会会員の声を取りまとめ、国・県をはじめとする関係機関等へ提言として提出しました。

本提言では、社会保障制度改革の動きに合わせ、生活困窮者自立支援法や子ども・子育て関連3法の施行、介護保険法の改正など、特に平成27年度からの法制度の施行や改正、それに伴う地方自治体の計画立案のタイミングを見据え、私たち福祉関係者が種別・分野を超えて協力し合い、主体的に取り組むべきことについて整理を進め、課題解決に必要な事柄を、法制度の枠組みに沿った7分野の提言にまとめています。【左】

課題の解決に向けては、すでに制度化されている福祉サービスのさらなる充実・発展や柔軟な運用、それを維持していくための安定した財源の確保が必要であるとともに、行政による取り組みだけでなく、福祉関係者や住民、ボランティアなど、地域社会のあらゆる構成員が地域福祉の担い手として、それぞれの役割を果たし、相互に連携・協働する体制を整えていく必要があります。

本会では、課題に対する公私の共通理解と連携・協働が進むよう、提言集を活用した活動を行ってまいります。

（企画調整・情報提供担当）

※提言集は、本会ホームページ（<http://www.knsy.jp/>）よりご覧いただけます

【本会主催】平成26年度萬谷児童福祉基金入学支度金のご案内

- 県内の児童養護施設等に在籍または里親に養育されている児童を対象に、4年制大学・短期大学・専門学校へ入学する際の支度金を支給します。
- ◇**支給額**＝1人30万円(返済の必要はありません)
 - ◇**対象**＝平成27年4月に大学・短大・専門学校に進学する9人を予定
 - ◇**提出書類**＝施設長または里親会からの所定の申請書、成績証明書、課題作文(テーマ「私の夢」800字以内)、推薦書
 - ◇**申請締切**＝1月31日(土)消印有効
 - ◇**問合先**＝地域福祉推進担当
☎045-312-4813 FAX045-312-6307
URL <http://www.knsyk.jp/tomosibi/>

平成26年度交通遺児大学等入学支度金のご案内

- (公財)神奈川新聞厚生文化事業団から、大学等へ進学を希望する交通遺児の高校生に対し、入学支度金を支給します。
- ◇**支給額**＝1人40万円(返済の必要はありません)
 - ◇**対象**＝平成27年4月に大学・短大・専門学校に進学する5人を予定
 - ◇**提出書類**＝所定の申請書、成績証明書、課題作文(テーマ「10年後の私」800字以内)、交通遺児であることを証明する公的な書類、主たる家計支持者である保護者の所得証明書
 - ◇**申請締切**＝1月31日(土)消印有効
 - ◇**支給決定**＝平成27年2月末日
 - ◇**問合先**＝(公財)神奈川新聞厚生文化事業団
☎045-222-0615 FAX045-222-0614

第6回神奈川県障害者文化・芸術祭のご案内

- ◇**内容**＝ダンス等の団体発表、写真・書道・手芸・工作・絵画等の展示
- ◇**日程**＝12月5日(金)～7日(日)
※各日開催時間が異なります
- ◇**会場**＝ハーモニーホール座間
- ◇**問合先**＝神奈川県障害者社会参加推進センター
☎045-311-8744 FAX045-316-6860

第21回若者の飲酒を考えるフォーラムのご案内

- ◇**日時**＝12月7日(日)午後1時～4時(午後0時30分受付開始)
- ◇**会場**＝横浜市健康福祉総合センター
- ◇**定員**＝200名
※直接会場にお越しください
- ◇**問合先**＝若者の飲酒を考えるフォーラム実行委員会事務局(久里浜医療センター アルコール関連問題予防センター内)
☎046-848-1550 FAX046-849-7743

第13回かながわ高齢者福祉研究大会・優秀賞を決定しました！

研究発表・介護技術発表の各優秀賞が決定し、10月1日に表彰式が開催されました。詳細は、大会ホームページをご確認ください。

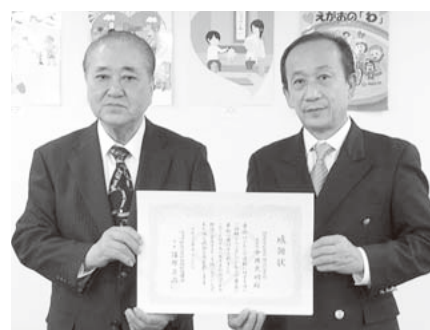


受賞者の皆さん【関連記事12面】

- 【問合先】
本会社会福祉施設・団体担当
☎045-311-1424 FAX045-313-0737
URL <http://www.kanagawafukushitakai.jp/>

寄附金品ありがとうございました

- 【一般寄附金】 広瀬公子
- 【子ども福祉基金】 荒谷昭子、むさし証券(株)
- 【ともしび基金】 (福)三育福祉会ともしびショップ保健福祉大学、明治大学校友会横浜地域支部、脇隆志、武藤照子、山崎忍、(福)恩賜財団済生会若草病院、座間市グラウンド・ゴルフ協会、県立湘南養護学校、マエダ薬品商事(株)
(合計2,370,485円)
- 【寄附物品】 県企業庁茅ヶ崎水道営業所 (いずれも順不同、敬称略)



明治大学校友会横浜地域支部よりともしび基金にご寄附いただき、桐ヶ谷健司幹事長(左)へ感謝状を贈呈

NHK-FM放送のご案内

NHK-FM(横浜81.9MHz/小田原83.5MHz)「お昼前のお知らせ」で本会事業を紹介します。ぜひご視聴ください。

日時：12月3日(水)
午前11時50分～55分
内容：障害者週間について

【問合先】

本会企画調整・情報提供担当
☎045-311-1423
FAX045-312-6302



ー 社会福祉施設の設計監理ー 株式会社 安江設計研究所

東京都港区高輪 2-19-17-808
Tel 03 (3449) 1771(代) / Fax 03 (3449) 1772
E-Mail yasue@yasue-sekkei.co.jp
URL <http://www.yasue-sekkei.co.jp/>

新築・増築・改修の他、耐震診断・建物定期報告・
アスベスト調査等お気軽にご相談ください

障がいのある人と家族のための 親切で誠実な 贈与・相続税などの 無料相談室

協公認会計士事務所
TEL：045-402-5923 (直通)
FAX：045-434-3711

東急東横線またはJR「菊名駅」徒歩1分

互いの良さを引き出す視点 **メイサムホールの現場教育**

(福)くすのき **メイサムホール** (厚木市)



①②新入職員が企画した演奏会にリズム隊として加わり、場を盛り上げる井戸川さん



③優美子さんのお隣りには歌詞カードをめくる直子さんの姿



④「中堅層やリーダー層も自分の指導方法が悪かったのかもしれないと悩んでいた」と吉田さん



⑤「在宅部門から見ると、施設の介護技術や人材育成など、『これはいいな』と思うところがたくさんある」と鳥沢さん

◆(福)くすのき **メイサムホール**

厚木市愛甲2208-1

☎046-220-1165 FAX046-220-0641

URL <http://meisam.jp/>

高齢者福祉の最前線で活躍する福祉従事者や学生など約2千人が参加した「第13回かながわ高齢者福祉研究大会」。本年度は186題の研究・技術発表があり、審査の結果、28題に優秀賞が贈られました。【関連記事11面】

今月の表紙取材にご協力いただいた、(福)くすのきでは「メイサムホールの現場教育」新入職員編」(発表：特別養護老人ホーム・介護職員・吉田昌由さん)、「足元を見て、スワット／SWOT分析を用いた教育体制の構築」(発表：居宅介護支援センター・ケアマネジャー・鳥沢賢三さん、生活支援部副部長・井戸川康子さん)の2題が優

秀賞に選ばれています。人材育成・業務改善と効率化をテーマとした研究発表の背景には、入職してから1年以内に退職していく人たちの存在がありました。24時間体制の介護の現場では、新入職員の育成・指導に複数の職員が携わります。指導担当の職員は自分が一番良いと思う介護技術や接し方等をそれぞれ熱心に伝えますが、入職して間もない職員は、どの方法が正しいのかと混乱することも少なくありません。

そこで新たに「育成担当職員」を決め、新入職員との定期面談を実施。さらに、日々の指導担当となった職員がどのように指導し、

新入職員とのかかわりの中で何を感じたか、5分程度で書き込むことのできる「引継ぎシート」を活用し、指導担当職員の不安解消や、新入職員の個性や強みに気づき、共有していくことを目指しました。

こうした事業所ごとの現場教育を法人全体の教育体制に結びつけたのが鳥沢さんの研究発表です。毎月開催する教育推進委員会を活用し、お互いの視点や取り組みを見せ合うことで、強みの「見える化」を進めました。離職者数の減少、研修会参加率の増加など、取り組みの成果も「見える化」してきています。

「研究発表では、これまで大切にしてきたことに少し手を加えたり、これから大切にしていきたいことをあらためて集約し、整理することと時間をかけた。優秀賞に選ばれたのは、どの現場にも共通する悩みだったからだと思う」

法人の目指す「person centered care」(個別ケア)は、人材育成にも通じる理念であるということも職員間で共有する機会として、研究発表の場が生かされたこと、受賞の喜びを語られました。

(企画調整・情報提供担当)

プリンターの新領域をひらく
RISO

プリンターの力を、
あなたの仕事の力に。



ORPHIS EX
ビジネスJプリンター

世界最速 **150** 枚/分*1
フルカラー **1.56** 円/枚*2
モノクロ **0.53** 円/枚*2
機能拡張性

*1: オルフィスEX9050/EX9000の場合、A4普通紙片面横送り、標準設定連続プリント、EXフェイスダウン排紙トレイ使用時。2014年1月現在販売の枚葉(カット紙)オフィス用カラープリンターにおいて世界最速(当社調べ)。*2: A4普通紙片面、RISO EXインクF使用時。カラーは測定画像にISO/IEC24712に定めるパターンを使用し、ISO/IEC24711に基づく測定方法によって算出。モノクロは測定画像にISO/IEC19752に定めるパターンを使用し、ISO/IEC24711に基づく測定方法によって算出。用紙別。※写真はオプション付き。

理想科学工業株式会社 神奈川営業部 〒221-0825 横浜市神奈川区反町4-37-3 日伸ビル横浜反町 TEL.045-321-6591 FAX.045-324-3326 | www.riso.co.jp

「福祉タイムズ」は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています

【発行日】2014(平成26)年11月15日(毎月1回15日発行)

【編集発行人】鈴木和夫

ご意見・ご感想をお待ちしています!

【発行所】社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

【印刷所】株式会社神奈川機関紙印刷所

〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4番地の2 ☎045-311-1423 FAX045-312-6302 E-mail kikaku@knsy.jp